

私たちは、兵庫県弁護士会の会長に、武本夕香子さんを推薦します。

- 1) 武本さんが会長になることと、他の人が会長になることでは、全く意味が違います。

弁護士という職業は、いまや瀕死の状態です。テレビ・ラジオには、怪しげな弁護士事務所のコマーシャルが流れ、国民が弁護士により被害をこうむる時代が訪れようとしています。早く正しい方向へ流れを変えなければ、大変なことになります。

それなのに、事態の深刻さに対する日弁連の認識はいまひとつです。いまだに司法試験合格者3000人を堅持すると言っている弁護士もいれば、4000人にすべきだというブラフをかけて、正しい改革を沈黙させようとする人までいます。

このような現状に一石を投じることができるのは、武本さんのみです。

考えてみてください。武本さんが兵庫県弁護士会の会長になった日のことを。

その時、初めて全国の弁護士が、事態の深刻さと重大さを正しく捉えるのです。武本さんは、司法改革問題に長年地道に取り組んできました。特に、法曹人口問題では象徴的存在で、兵庫県弁護士会の中で全国的にもっとも名を知られた人といっても過言ではありません。武本さんの書いた数々の冊子は、日弁連の中核部でも話題となり、各県弁護士会で次々と挙げられている法曹人口問題の決議で、武本さんの冊子を参考にしていないものはないでしょう。

その武本さんが、兵庫県弁護士会の会長に選任されるのです。日弁連の執行部も全国の弁護士も、衝撃と共にその意味を知るでしょう。他の人ではそうはなりません。武本さんのみがなしうるのです。兵庫県弁護士会の会長選挙だからと言って、兵庫県のことだけを考えているわけにはいきません。よって、私たちは、たとえ武本さんと全く同じ政策を持った対立候補がいたとしても、武本さんが会長にふさわしいと考えます。

- 2) 武本さんは、司法改革のような大きな問題に対して正しく判断する能力を持っています。

司法改革に反対しようものなら極悪人のように言われたあの時代、武本さんは、正確に今日のことを見通し、勇気を持って批判しました。雰囲気に関わらず正しく本質を見抜き、且つそれを主張することを恐れず。会長という職責に最も必要と思われる能力を、武本さんは備えています。

3) 武本さんには、なすべき理想があります。

長年に渡る武本さんの活動は、武本さんが正義感と意欲となすべき理想を持っていることを示しています。

武本さんは、公的な職務以外に、関東十県会始め多くの地方会と交流を持ち、各地の弁護士会で講演を行ってきました。また、各種の論文を執筆されました。それらの中には、京都大学法学部の修士論文となったものや「自由と正義」等の雑誌に掲載されたものもありますが、そうでないものは自費で印刷し配布してきました。これらの活動は、みんなにとって理想的な法曹界を実現しようという正義感と意欲から、自発的になされたものです。

なすべき理想を持った方を会長に！  
私たちはそう考えています。

4) 武本さんは、速く正確な実務能力をお持ちです。

武本さんは、実務的能力にも長けています。日弁連で幾つかの委員をするとともに、兵庫県弁護士会においても消費者保護委員会の委員長として、数々の難題を処理していることは多くの会員の良く知るところです。法曹界が大きな変革の波に洗われている現在、会長にも、若さとスピードある事務処理能力が求められています。

5) 武本さんは、誰に対しても平等に接します。

武本さんの態度は、誰に対しても平等です。年齢や地位に臆することなく、正しいと思うことを主張されます  
弁護士会は、外部にはリベラルな主張をするくせに、内部では封建的な体質を色濃く残していることは、皆さん実感されているところでしょう。そのため、武本さんの方が誤解されることがあります。しかし、武本さんのような態度が、本来あるべき弁護士像だと、われわれは考えています。

6) 武本さんは、議論に対して非常に真摯で、途中で投げ出すことはなく、自分が間違っていると思えば素直に訂正します。

武本さんの議論は鋭く、そのため極端なことを言っていると感じられるむきもあります。しかし、それは間違いです。武本さんの主張や予言は、ことごと

くの中しつつあります。結局、武本さんの言っていたことは、極論でも何でもなかったのです。

また、武本さんの議論に対する真摯な態度は、賞賛に値します。粘り強く議論を続け、決して投げ出したりしません。どれだけの人が、議論に負けそうになると、話題を変えたり、回答しなかったり、怒って議論をやめたりすることでしょう。武本さんに、そんなことは無縁です。自分が間違っているとわかれば、実に素直に、誤りを認め訂正します。

以上6点に絞って武本さんを推薦いたします。

司法試験合格者が年二千人を少し超えたところで、この有様です。

今後、法曹界と日本に、どのような事態が待ってるかは、想像するに余りあります。

もう、私たちに、年功序列や派閥均衡人事をしている暇はありません。

武本さんと共に、兵庫県弁護士会を変えて行きましょう。

兵庫県から、日本を変えていきましょう。

以 上

2009年（平成21年）1月23日